

H30年秋期の堅果類等の豊凶とツキノワグマの出没予測（H30年10月3日）

中山間地域研究センター

1. 目撃、被害、捕獲の状況

今年度の上半期のクマの目撃件数（被害、痕跡、捕獲件数を含む）は5～7月に多かった。一方、捕獲も5～8月に多くて、錯誤捕獲が82%と多くを占めた（図1）。年齢査定を未実施のため、体重と全長から捕獲個体の年齢構成を推定してみた。今年捕獲された個体の体重と全長を2003～2017年度に捕獲された1～3歳の個体のものと比較するとほぼ同様の傾向を示した（図2, 3）。このことから警戒心の少ない若いオスが出生地からの分散する過程で、人里付近へ出没した個体の捕獲が多かったと推測される（図4）。また、8月は春～夏季の餌（新芽・若葉、タケノコ、ウワミズザクラなど）から秋季（堅果類、液化類など）の餌に移行する端境期で餌不足による出没が多かったと考えられる。また、有害捕獲が6月に4頭、7月5頭、8月4頭および9月に1頭あった。いずれも益田、浜田地域であったが、6月はモモ、クワ、7月はモモ、8月は養蜂蜜洞、ナシ、モモ、濃厚飼料、9月は養蜂蜜洞への被害による捕獲であった。ただし、大量出没年にみられるクマが農作物等に執着して、被害が継続する状況は認めなかった。

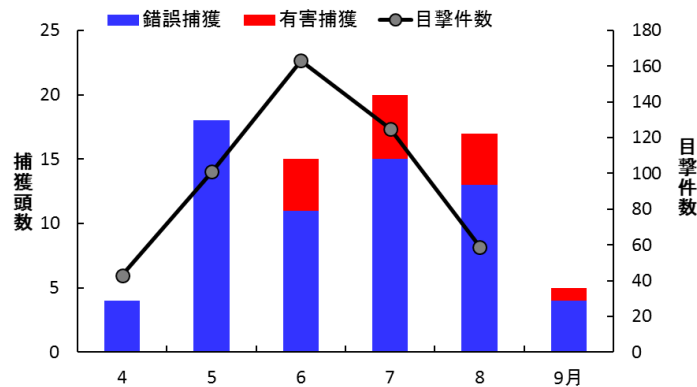


図1 H30年4～9月の目撃件数と捕獲頭数

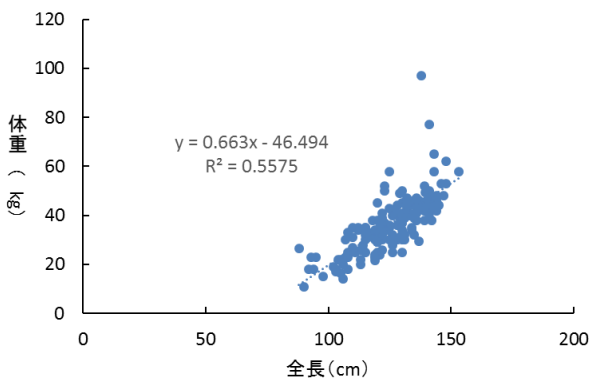


図2 1～3歳の体重と全長の相関
(H15～29年度の4～9月の捕獲個体)

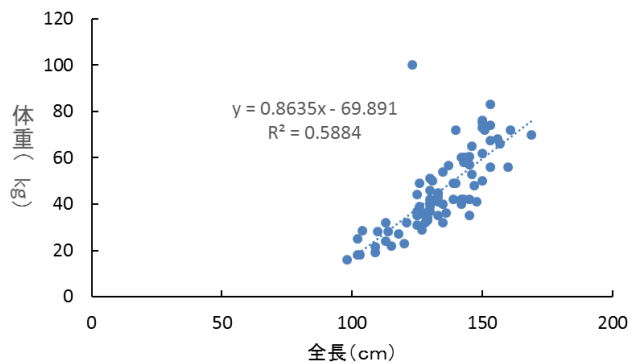


図3 H30年4～9月の捕獲個体の全長と体重の相関

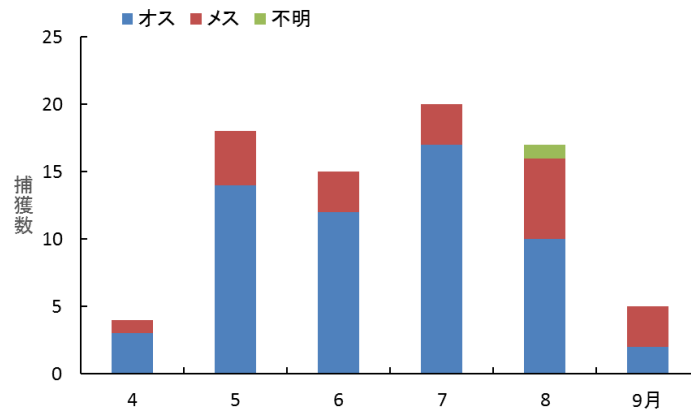


図4 H30年4～9月の性別の捕獲数

2. 堅果類等の豊凶の状況（9月上旬に実施した目視による評価）

クマノミズキ：豊作

シバグリ：豊作

コナラ：やや並作

アラカシ：やや並作

ミズナラ（西部地域）：並作

ミズナラ（東部地域）：凶作

ブナ（西部地域）：凶作

ブナ（東部地域）：凶作

3. 今後の出沒予測

9月はクマノミズキなどが多く実ったために出沒と捕獲が減少したと考えられる。10月以降もシバグリ、コナラなどが実ると予想されるので、人里への出沒や被害発生は増加しないと予測する。ただし、コナラは結実木がモザイク状に分布しており、またアラカシも昨年より結実が少ないので、晩秋に冬眠のための脂肪が十分に蓄積できなかった個体が出沒する可能性もある。ミズナラとブナはほぼ凶作であるが、本県の分布域は高標高（600m以上）の地域に限られるので、大きな影響はないと考えられる。なお、シードトラップによる評価は11月末に集計する予定である。

また、今後4月以降の捕獲個体の年齢、胃内容物、栄養状態などを調査して、5～8月の出沒との関連を分析する予定である。